

第30回 龍頭が滝案内

「桃は、龍頭が滝の名物だったらしい（中編）」

今回は、江戸時代末に作成された「出雲名物番付」に、出雲名物として、「龍頭が滝の桃」が入っていたことを紹介しましたが、明治時代でも、出雲名物だったのでしょうか。

国立国会図書館のホームページでは、明治時代の資料を閲覧できますが、それを使って調べてみると、出雲名物とは書かれてはいませんが、龍頭が滝の桃のことに触れたものを、いくつか見つけることができました。

具体的には、『島根県管内地誌略 出雲国地誌略』、『出雲国地誌略字引』、『島根県名勝誌』、『新撰名勝地誌』の4冊です。これらは、その地域の自然や産業、文化や歴史などを記載した、地誌書と呼ばれるものです。（下記の表に、発行年や著者、内容をまとめてみました。）

どの資料も、書かれている内容は、ほぼ同じです。まとめると、「松笠村の龍頭が滝の『泉源』には、一村落があり、そこには、桃が樹林をなして、桃の花が多い」となります。「泉源」とは、龍頭が滝の水源地のことでしょうから、滝の上の、広域農道の駐車場付近一帯のことを、指すものと思われます。また、この記述から、「出雲名物番付」の作成者は、龍頭が滝の、滝の上で、桃の木が群れをなし桃の花が多かったことから、「龍頭之滝桃」「龍頭滝モ」を出雲名物とした、と想像できます。

では、実際は、どうだったのでしょうか。たくさんの桃の木が、群れを成して広がっていたのでしょうか。しかし、明治時代の他の資料を読むと、別な姿が、浮かんできます。

明治の初め（明治5、6年頃か？）に作成された『松笠村村誌』には、「森林 瀧ノ上民有ニ属ス雑樹多シ」と書かれています。もしも、瀧ノ上（滝の上）で、桃の木が群れをなしているのならば、「雑樹多シ」ではなくて、「桃樹林ヲナス」とでも書くはずですから、滝の上には、桃の木は、あまりなかったのではないのでしょうか。

また、明治42年の松笠村の調査によれば、明治40年頃には、松笠村には、74本の桃の木があったとのこと。しかし、この桃の木は、果実を自家で食べるために、各戸で栽培されていたもののようです（『松笠村農事調査報告書』明治42(1909)年）。また、同じ時期には、松笠村では、各戸に、柿、梨、苹果（りんご）を、1本ずつ植えるという事業が進められていて、桃の栽培には、関心がなかったようです（『松笠村事蹟』）。

これらを考え合わせると、明治時代には、樹林をなすほどに、桃の木は生い茂ってはいなかったのですが、龍頭が滝では桃が樹林をなしているという情報、評判は、広く流布していた、ということがいえるのではないのでしょうか。

4冊の地誌書は、どれも内容が同じでしたが、現地のことをよく調べずに、伝聞で書いたり、他の本の内容を、そのまま書き写した可能性も、考えられますね。（次回に続く。）

番号	資料名	年代	西暦	内容	備考
1	島根県管内地誌略 出雲国地誌略	明治12年	1879	泉源ニ一荒落アリ桃樹林ヲ成セリ	当時島根県在勤 清水清太郎著
2	出雲国地誌略字引	明治13年	1880	松笠村マツカサムラ 巨瀑オオイナルタキ 龍頭瀧 泉源タキノミナモト 一荒落ヒトツノサミシキムラ 桃樹林ヲ成セリ モモノキガムレヲナシテイル	清水清太郎 渡部寛一郎著
3	島根県名勝誌	明治41年	1908	泉源に一村落ありて桃樹林をなせり	秋鹿村 奥原福市著
4	新撰名勝地誌	明治45年	1912	泉源に一村落あり、桃花多し	田山花袋編博文館発行